

# 学校法人会計と企業会計の違い

## 【目的の違い】

学校法人と企業との大きな違いは、学校法人は教育研究活動を目的とした非営利組織であるのに対し、企業は利益の追求を目的とした営利組織であることです。学校法人は、国や地方公共団体より補助を受けており、公共性の高い組織でもあります。そのため、学校法人会計は、利益を見るよりも、持続的な教育研究活動と、教育研究の維持向上をいかに達成するかが重要視されています。

## 【組織目的と会計ルールと比較】

	学校法人	企業
組織の目的	持続的な教育研究活動と維持向上 (非営利組織)	利益の獲得と出資者への還元 (営利組織)
会計のルール	学校法人会計基準	企業会計原則

## 【作成書類の違い】

### ① 資金収支計算書

企業には、資金の動きを示すものとして「キャッシュフロー計算書」があります。これは、営業活動・投資活動・財務活動という視点から、資金の獲得能力や支払能力を分析するもので、利益拡大のために活かされます。

対して学校法人は、資金の動きを示すものとして「資金収支計算書」を作成し、全ての収入及び支出の内容と資金の流れを明らかにします。キャッシュフロー計算書との違いは、実績と予算との比較を明らかにして、予算の進捗状況を管理しているところにあります。学校法人の収入は、補助金や寄付金、学納金など固定的なため、計画的な支出が必要であることから、学校法人は予算主義の考え方をとっています。

### ② 事業活動収支計算書

企業は、経営成績を示すために「損益計算書」を作成し、「営業損益」、「経常損益」、「当期純利益」など、様々な角度で損益を計上することで、損益管理に活かしていきます。対して学校法人は、「事業活動収支計算書」を作成し、企業における収益・費用はそれぞれ「事業活動収入」、「事業活動支出」に相当します。また、事業活動収入から事業活動支出を差し引いた金額を「基本金組入前当年度収支差額」と呼び、企業の損益計算書における当期純利益に相当します。そして学校法人は、資産を保持するために維持すべきものとして、取得した固定資産額を「基本金」に組入れなければなりません。基本金組入前当年度収支差額から、この基本金組入額を控除したものが「当年度収支差額」となります。学校法人は、利益追求を目的としないので、損益ではなく収支の差額で捉えます。学校法人は学納金や寄付金、補助金など一定の収入がありますが、教育研究活動の維持向上を図るには、それに伴う設備投資も必要になります。つまり、基本金組入額を控除した上で、収支が均衡した状態が、財政状態が維持されていることとなります。

### ③ 貸借対照表

貸借対照表は、年度末に資産や負債等がどれだけあるか、財政状態を示す書類です。基本的な構造は学校法人と企業とでは似ていますが、企業において「純資産」となる部分が、学校法人では異なっています。企業は、会社設立の際の出資金を資本金とし、そこに利益剰余金を加算することで純資産としますが、学校法人は、事業活動収支計算書の基本金と翌年度繰越収支差額が、企業の純資産に相当します。

また、企業は流動性の強い資産及び負債から表記しているのに対し、学校法人は固定性の強い資産及び負債から表記しています。これは、支払能力の重視される企業に対して、学校法人は永続的な教育研究活動が目的であることから、保持すべき資産が重要視されるためです。



#### 〔作成書類の比較及び目的〕

	学 校 法 人	企 業
資金の動きの把握	資金収支計算書	キャッシュフロー計算書
収支の把握	事業活動収支計算書	損益計算書
年度末の財政状態の把握	貸借対照表	貸借対照表

#### 〔用語説明〕

事業活動収入	学生生徒等納金、寄付金、補助金など、負債とならず、学校の諸活動に帰属する収入。
事業活動支出	人件費、教育研究経費、管理経費など、当年度に消費される支出。
基本金組入前当年度収支差額	事業活動収入から事業活動支出を差し引いた金額。企業の損益計算書における当期純利益に相当する。
基本金組入額	必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その事業活動収入から組入れた金額。
当年度収支差額	基本金組入前当年度収支差額より、基本金組入額を控除した額。